



| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 (申請時) | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|-------------------------------|---------------------|--|---|---|-------------|------------|---------|---------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 1 上溝健康事業実行委員会 | 上溝健康体操事業 | 上溝地区内には70歳以上の高齢者が5,000人以上いる状況であり、今後も増加する。このような高齢社会の中、一人ひとりの高齢者が自立し、健康に生活していくことが地域にとっても重要であると考えられる。また、住民の高齢化に伴い、地域活動への参加者が減少し、住民同士の交流する機会が少なくなってきたり、住民同士の十分なコミュニケーションが図られていない状況がある。 | 地域住民の健康維持を図り、住民相互のコミュニケーションを充実させることにより、健康で健全な地域づくりと地域の活性化を目的とする。 | 地域住民、主に高齢者を対象に、健康維持や介護予防を目的とした、健康体操事業を実施する。 また、高齢者の中には、運動を不得手とする高齢者もいることから、こういった方々の参加を促し、閉じこもりやうつ病・認知症等の予防のため、歌うことを主とした軽い運動の事業を実施する。 健康体操事業については、ラジオ体操指導者等を講師にむかえ、年15回の実施を予定している。 歌うことを主とした軽い運動の事業については、音楽療法士等を講師にむかえ、年間12回の実施を予定している。 なお、相模原市主催の養成講座を受講した介護予防サポーターや健康づくり普及員が、講師の補助や事業の支援を行う。 | H30.5.16 | 250,000 | 250,000 | 250,000 |
| 2 小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会 | 小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進事業 | 上溝地区では、小田急多摩線延伸事業を将来にわたる上溝のまちづくりの核となる事業と考えており、地区まちづくり懇談会においてもテーマとして取り上げている。 同事業は、平成28年4月の国の交通政策審議会において意義あるプロジェクトと位置づけられたが、実現に向けては費用負担や採算性など多くの課題が指摘されていることから、早期実現に向けた地区住民の意識の高揚を図るため、昨年3月に新たな推進組織である「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」を設立し、活動を継続している。 | 小田急多摩線延伸計画を上溝まで早期に実現させるため、地区住民が一体となり延伸推進活動を積極的に行い、また同時に近未来の上溝地区を希望にあふれ、賑わいのある、住みよいまちに創生することを目的とする。 | 上溝地区を希望にあふれ、賑わいのある、住みよいまちに創生するため、自治会や商店街など地域が一体となり小田急多摩線延伸計画の周知と広報活動等に積極的に取り組む。 具体的には、小田急多摩線延伸計画の周知と事業の推進をアピールするための「のぼり旗」「横断幕」「フラッグ」を作成し、地区内に掲示することにより、地域住民に広く周知し、さらに関心を高めていく。 | H30.6.13 | 857,000 | 824,000 | 824,000 |
| | | | | [追加分] 広報宣伝活動の強化を図るため、横断幕を追加で作成し、地区内に掲出するとともに、台風により被害を受けたのぼり旗の代替として看板を作成し、地区内に掲出する。 | H31.1.25 | 358,000 | 336,000 | 336,000 |
| 3 高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業実行委員会 | 高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業 | 少子高齢化、核家族化に伴い、高齢者、特に一人暮らしや引きこもりがちな高齢者、身近に親しい人がいない人、更には高齢者のみの世帯も増える傾向にある。高齢者の中には時に、日常生活を送るうえで、緊急事態や不自由な状態に陥るときもあり、そのときの対応に苦慮している事例があると聞いている。 現在でもこれらの人々に対する援助は、行政機関からの直接的なものもあり、民間サイドでも民生委員をはじめ、老人会やボランティアの人々の活動もあるが、必ずしもそれだけでは十分といえない現状である。 | 高齢者の相談受付窓口になる家を選定し、高齢者の悩み事の解決の一助とし、高齢者にやさしいまちづくりを目指す。地区住民が高齢者に対して常に関心を持ち続ける環境を醸成し、高齢者が安心して暮らせる地域づくりの一環として行うものである。 | 自治会長や民生委員、老人会役員、地区社協役員の家、地域内店舗などに看板(プレート)を掲げ、高齢者の相談受付窓口になってもらい、高齢者支援センターにつなぎ、高齢者の悩みの解決を図る。 ・名称、キャッチフレーズ、看板に表示するマークデザインの作成 ・看板掲示協力者への委嘱状交付 ・高齢者の見守りなどに関する講演会の開催 ・対象となる高齢者(75歳以上を目安)に周知を徹底 ・地区内に看板を掲示するとともに、リーフレットを配布 | H30.9.25 | 460,000 | 460,000 | 460,000 |

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 (申請時) | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|---------------------------------------|--------------------------|---|--|--|-------------|------------|-----------|-----------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 4 上溝地区社協子育てマップ編集委員会 | 上溝地区子育てマップ作成事業 | 上溝地区には、災害対策についての「防災マップ」や、高齢者支援センター発行の「暮らし役立つガイド」に掲載の「上溝マップ」などがあり、地域住民に情報提供がなされているが、子育てに関する情報を掲載した「子育てマップ」はない。以前より子育て世代から、子育て情報をまとめたマップを望む声があり、その要望に応えるべく作成を計画するもの。 | 子育て世代が、子どもの安全かつ安心で、健全やかな成長を育むため、子育てに特化したマップを作成する。 地域の医院、公共施設はもとより、各種相談機関や子どもの急病などへの対応情報なども掲載することで、日々の子育ての不安解消を図る。 | マップの提示内容 子どもに関する地域資源(幼稚園、保育園、学校、児童クラブ等)の情報、 広域避難場所(災害時への情報提供)、相談機関情報、病・医院の情報(電話番号・主な診療科目)、 休日・夜間の急病への情報、子どもの病気の早期発見のための観察ポイント、AED設置場所情報の提示 事業実施に当たっては、地区社協、民児協、保育園、こどもセンターなどが幅広く作成に携わり、意見を取り入れる。 完成したマップは、子育て広場や保育園、幼稚園、小学校(1~3年生)、地区内の公共施設や事業所などを通して、対象者に広く配布する。(作成部数は4,000部を予定) | H30.9.25 | 216,000 | 216,000 | 216,000 |
| 5 上溝さくら公園さくら39プロジェクト・上溝さくらまつり実行委員会 | 上溝さくら公園さくら39プロジェクト植樹式事業 | ・上溝さくら公園は、秋から春にかけて桜の開花が楽しめる公園として平成27年3月に開園し、「はるか桜」や「穹堂桜」などの植樹を経て、開園当初の7種11本から、現在は12種17本に増えたところ。 ・当公園は、地域住民の憩いの場・集いの場として親しまれており、さらに本年3月には公園敷地が拡大されたことで更なる充実が期待されている。 ・上溝地区としては、この公園を相模原市のセールスポイントである桜の名所として大きく育てていくことで、市のイメージアップに貢献するとともに、地域住民が誇りに感じ「上溝に長く住み続けたい」と思えるような、地域の財産としていきたいと考えている。 | ・上溝さくら公園を桜の名所として大きく育てていくことにより、地域の魅力のさらなる向上と活性化、まちの賑わいに貢献する。 ・事業を通じて様々な団体・個人が交流を深めることにより、地域の活性化に寄与する。 ・幅広い世代に受け入れられるイベントを実施することにより、地域住民の自治会活動や地域活動への理解を深め、自治会加入率の向上や地域活動への参加者増加を図る。 ・小田急多摩線の延伸や上溝駅開設推進活動についてのPRを行い、計画の早期実現に向けた住民意識の高揚の機会とする。 | ・植樹式を高年齢から児童まで幅広い年代の地域住民の参加を得て行うことで、上溝地区に対する愛着と誇りを持つ機会とする。 ・植樹式とあわせて「さくら体操」や「さくらまつり」を実施するなど、懇親の場を設けることで参加者の交流親睦を図り、地域への関心、課題の共有を図る機会とし、地域の賑わいに貢献する。 | H31.1.25 | 282,000 | 246,000 | 246,000 |
| - 相模原市自治会連合会中央区連絡会 | 中央区振り込め詐欺対策事業 9地区合同事業 | 全国で多くの被害を出している振り込め詐欺だが、相模原市、中央区もその例外ではなく、平成29年に確認された被害件数は相模原市全域で83件(被害額:約2億3,500万円)、中央区内は41件(被害額:約7,700万円)に上っている。 各地区においても対策を求める声は多く、警察や行政の取り組みに加え、自治会をはじめとした、地域の住民自身による啓発活動等も実際に行われている。しかしながら、平成30年に入ってから被害件数は増加傾向にあり、警察・行政と地域とが連携した一層の取り組みが必要となっている。 | 詐欺被害の中でも特に近年の高齢者の詐欺被害増加に着目し、高齢者向けの詐欺対策を講じることで、1件でも多くの詐欺被害を未然に防ぐことを目的とする。 | ・振り込め詐欺防止のステッカーを作成し、各地区において自治会加入者に限らず詐欺被害が危惧される高齢者世帯を対象に配布する。 ・ステッカーを自宅の電話機付近に貼ってもらうことで、詐欺に対する意識を高め、被害を未然に防ぐ。 | H30.12.13 | 138,000 | 138,000 | 138,000 |
| | | | | | | 2,423,000 | 2,332,000 | 2,332,000 |

9地区合同事業以外の合計額